

「おとふけ」の 伝承

私たちのふるさと「おとふけ」。先人たちの労苦があり、いま、私たちの住む「おとふけ」がある。広報おとふけでは、音更町に根をおろし、ふるさとを築いてきた人たちの後世に語り継ぎたいお話しを紹介しています。



小野 盛夫さん

昭和7年6月5日生まれ。
昭和地区在住

私の生い立ちと 若き日の思い出

私 は昭和7年6月5日、士幌町佐倉地区で農家の次男として生まれました。当時の佐倉地区には約90戸の農家がありましたが、士幌市街までは不便で3里ぐらいは歩きました。

上居辺小学校高等科に通学していた頃は戦時下でしたので、春先は毎日暗渠掘り、夏は亜麻引きの援農作業、家では馬用の草刈りと冬の燃料用の薪切りでした。ですから、「勉強しなさい」とは言われたことはありませんでした。援農に行った農家で食べた「ゆでとうきび」がとても美味しく、あの味は忘れられない思い出です。

佐倉地区から 7年間の通い作

昭 和26年、兄と一緒に世話していた馬が68万円です。父はそのお金を元手に現金42万円で昭和地区の7町2反の土地を購入し、12月には馬小屋を建ててくれました。それから片道7時間、7年間続く馬車での通い作が始まりました。

朝、馬にたつぷりと餌を食べさせ5時に出発、昼頃になって昭和に到着。忙しい時は馬小屋の2階に1週間寝泊まりする生活でした。

分家して昭和地区に 定住、当時の苦勞

昭 和32年に住宅を新築、豊田地区出身の妻と結婚し、正式に分家をしました。2人の子どもに恵まれ、長男が農業を継ぎ、孫で3代目です。当時は水田地帯だったので、ビートや馬鈴薯などを作ってもさっぱり収量が上がらない時期もありました。また、音更市街地へ行くには、徒歩では音更川に吊橋が

かかっていたのですが、肥料や豆を積んで馬車を使う時は1時間以上かけ、遠回りして音更橋を渡って行かなければなりませんでした。

同じ頃、秋になって用水路の水がなくなると、春まで井戸水も枯れてしまい、本当に苦勞しました。そこで、借金をして水源に当たるまで70m掘りました。その水は水量も豊富で味も良く、水道が整備された今も大切に使っています。

馬との絆と 健康の秘訣

子 どもの頃から馬の世話

を続け、分家した時には2頭でしたが、気に入った馬には3頭ぐらい産ませて育て、ずいぶん長い間馬と共に過ごしてきました。畜産共進会に出品して、1等賞に

なったこともありです。農業経営は息子家族にまかせ、畑作業の合間の6月からブロッコリーを作付けしていますが、朝食前の収穫作業であつという間に5000歩くらい歩ける、これが健康の秘訣と改めて感じています。



先日は、上士幌町で290頭の牛を飼育している農家を見学してきました。建物も設備も素晴らしく、驚きました。何歳になっても、刺激になりますね。

第10回北海道総合畜産共進会で1等賞を取った第九栄姫号

昭和地区の 皆さんに感謝

現 在、昭和小学校まで続く立派な歩道が完成し、区域外の子どもたちも通い賑わっています。

老人会の会員は約100人ですが、健康で常時参加するのは35人ぐらいです。気心の知れた仲間との会話はとても面白く、毎回楽しみます。あとは孫にお嫁さんが来て、次代に繋がってくればこれ以上幸せなことはないですね。